

「こんなに小さな私たちさえも」

九州部会長 佐藤真史(荒尾めぐみ幼稚園)

### ○キリスト教保育連盟に連なる恵み

私は日本キリスト教団荒尾教会の牧師として2017年春に遣わされ、同時にこども園の責任を担うこととなりました。幼児教育に関してはまったくのド素人であり、自分なんかで務まるのだろうかと大きな不安の中でスタートしました。不安は的中し、最初は「大嵐」となっていました。

課題にぶつかる度に、教会役員会で話し合い祈りました。また、他園を訪問し、学び、相談し、教職員と試行錯誤を繰り返す中で、少しずつ少しずつ道が整えられていきました。深い悩みの中にあった時、熊本市内にある保育園をまったく別件で訪問する機会がありました。子ども主体で遊びを中心とした素晴らしい保育環境に惹きつけられ、園長と話していると、熊本地区園長会でご一緒しているH先生の名前が出て来たのです。勇気を出してH先生に電話をして以来、何度となく訪問させていただき、学ばせていただいています。

もう一人よく相談に乗っていただいているN先生がいますが、そこも九州部会に属する園です。キ保連に連なっているからこそその出会いと恵みに感謝しています。

### ○イエス・キリストという確かな光

「キリスト教保育」ならではの悩みと喜び(祈りや礼拝の持ち方・クリスマス会などの行事・教会との繋がり・インクルーシブ保育など)があります。また、大きく保育制度が動く渦中を私たちは過ごしています。さらに、貧困の拡大、コロナ禍でのDVや自死の増加、「キリストの平和」(マタ5:9)と逆行するかのような政治の動き、切迫した気候変動問題など、子どもたちを取り巻く社会の課題は深刻です。頭を抱え投げ出したくなる日もあります。

だからこそ、イエス・キリストという確かな光に、いつも立ち返っていきたく願っています。キ保連にはそのきっかけやヒント、そして導きが溢れています。

「主の招く声が聞こえてくる。こんなに小さな私たちさえも、みわざのため用いられる」(讃21-516)ことを信じ歩いていきましょう。